

心をみつめる

第三十六

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただいています。
老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように。

ご縁に育まれて

お経に「無有代者」(代わる者有ること無し)とお言葉「私に代わってくれる者は無い」という、厳しいお諭に、学生時代に強く心を動かされました。毎日、私がしていること、また思っていることは、すべて「私」以外のなものでもありません。人に代わってもらうことはできないのです。

一方で、瞑想の世界には「観照」という境地があると聞きます。ただ自分の心身に起こることを静かに見つめるだけで、それと同一化しないというものです。素晴らしいと思いますが、私自身にとってはなかなか至れるものではありません。

実際の私は、どのような思いや行いであれ「それが私なのだ」としか言えません。煩惱に揺れ、後悔し、情けなく思うこともしばしばです。
では、そのような私でよいのでしょうか。



住職 藤崎 功良 さん



浄土真宗 本願寺派
徧照寺
若松区竹並 1578
電話 093-741-1017

親鸞聖人のお言葉に、「信樂を願力にあらわす」とあります。「信樂(信心のこと)は仏さまの願いのほたらきの中にある」という意味です。

また、「心を弘誓の仏地に建て、念を難思の法海に流す」とも示されています。すなわち「心を、すべてのものを救いたいと誓われた仏さまのおところに建て、思いを、人知でははかり知れない仏さまの世界に流していく」と受けとめられます。私の心が騒いでいるままであっても、不思議な安らぎを恵まれることがあります。

「愚かなことはかり思い、行っている私にも、仏さまの願いは届いている」——そのように受けとめるとき、心がふっと和らぎます。

仏壇の前に座り、亡き人のご縁を通して手を合わせるとき、私はその安らぎをいただきます。私にとって仏壇やお墓の前こそ、仏さまのお育てをいただく場であると感じます。

ここで申したいのは、「お育てをいた

だく」「お育てにあう」ということです。「育てる」ではなく、「育て」はただくもの、「育て」に遇うもの——この表現に、深いご縁が込められていると思います。

その思いで生きるなら、スズメが他の鳥とも仲よくしているように、互いの立場を尊重しながら暮らせる世界が開かれていくでしょう。鳥たちの姿に心を重ねるとき、あらためて「ともに」「一緒に」ということが新しい輝きをもたせてくれます。

亡き人との出会いも、いま生きるご縁も、すべて仏さまのお育てとしていただきながら——。「ご縁(お育て)」をかんがみ、これからも「ともに」聞かせていただきますように。



ホームページは
こちらから

〈お仏壇のはせがわ〉からのご案内

この度、お仏壇のはせがわ小倉店ではご好評いただいております「法話会」(鳳凰の集い)を再開することになりました。地域のお寺様をお迎えして、仏教について分かりやすく楽しいお話をさせていただきます。ぜひお気軽にご参加ください。

日時 ● 令和7年11月26日(水)
AM11:00~12:00(受付10:30~開始)
場所 ● お仏壇のはせがわ 小倉店3階
(椅子とテーブルをご準備しております)

※会場準備等の都合がございますので、ご希望の方は11月18日(火)までご連絡いただければ幸いです。

〈講師〉
浄土真宗本願寺派 徧照寺
住職 藤崎 功良 師



お仏壇の
はせがわ

小倉北区室町 2-1-3 営業時間/10:00~18:00
小倉店 (フリーダイヤル) 0120-711-610

